



がん対策推進企業アクション 女性のがん対策活動

"Working RIBBON (W RIBBON) "

「乳がん・子宮頸がん検診80%チャレンジ」

Working RIBBONオフィシャルサポーターによる
優良企業インタビューVol.1

研冷工業株式会社（新潟県）

『経営トップ自らの声かけをきっかけに
受診率100%を継続！』

- 事業内容
空調衛生電気設備工事
- 企業概要
新潟県中央区親松138番地21
女性社員5名
乳がん・子宮頸がん受診率100%

コーポレートサイト

<https://www.kenrei.com/>



■がん対策推進担当者
研冷工業株式会社
総務部 酒井明美様

■インタビューー
株式会社Blanket
代表取締役 秋本可愛様
(がん対策推進企業アクション
Working RIBBONオフィシャルサポーター)



■取り組みインタビュー

秋本様：

事前の資料でも御社の取り組み内容を拝見いたしましたが、2021年の乳がん検診も子宮頸がん検診の検診受診率も100%ということで、非常に素晴らしいと関心いたしました。御社としてその100%達成に向けて取り組んでいることをお伺いできますでしょうか。

酒井様：

特別、何かしているとうことはありませんが、社長がとにかく「がんにならないように」ということで、たとえ女性特有のがんの話題であっても、新聞記事を朝礼で発表したり記事を共有してくれます。社長が私に声をかけ、私から従業員に声かけをしているので「100%」を意識してやっているということではないのです。

秋本様：

研冷工業様は日頃から社内で情報発信の頻度が高いのですね。

酒井様：

前述でも述べたように、社長ががんに関する記事を見つけると全て切り抜いてきて朝礼で話すなど、高い頻度で情報共有を行っております。どうしてもたばこに話題がいくので、最近「飲酒も関係するよ」など、いろいろな意味で少し幅を広げながら、「がん対策をしましょう」と勧奨しています。

秋本様：

そこまで御社の社長ががん対策に思い入れが強いのは、亡くなられた方がいらっしゃるという背景があるからでしょうか。

酒井様：

退職をした社員がすぐにがんに罹患したので、やはり社長もかなりショックが大きかったようです。その頃はまだ、健康診断に関しても深く取り組んでるわけでもなく、年に1回受けに行けばいいよみたいな感じで、おそらく社長自身も単純に「健康診断行ってきました」という気持ちだったと思います。けれどもやはり、元同僚の死をきっかけに何かしなくてはというタイミングで、このがん対策推進企業アクションに出会い、そこから変わりましたね。



秋本様：

やはり身近な人が伝えてくれると、意識が変わるきっかけになるのですね。社員にとって身近な社長という存在が、これだけ高頻度で伝えていると、社員も意識せざるを得ない状況だなと感じますね。この「乳がん・子宮頸がん検診受診率80%チャレンジ」を見つけて参加されたのは、どういったきっかけでしたか。御社は事業内容から、男性が多いのかなという印象がありましたが、いかがでしょうか。

酒井様：

がんという病気は男性でも女性でもかかりますし、がん対策推進企業アクションが行っているものであれば間違いがなく、がんやがん対策について勉強したいというところから参画しました。まだ発信されている情報を読んでいるだけという段階ですが、これからさらに勉強しようというところです。

秋本様：

御社では、5大がんに関して検査を受診をするように社員に声かけをされていたり、喫煙者向けの取り組みをしたり、eラーニングの受講などを実践していらっしゃると思いますが、その中でも社員から反応が良いものや、よく利用されているものはありますか。

酒井様：

5大がんはその年齢に達していれば基本的に全員が受診できます。ただ、推奨されている検査が信じられないという社員については、がん検診の重要性を説明しているところです。健康診断は会社が実施するものなので、何か特別な理由がない限り、社員のみなさんは拒否することもなく「はい、受けます」という状況です。若い世代は、家族の中にがんになった人がいたり、遺伝的に心配で受ける人もいます。5大がんに関しては受診を勧奨し、会社負担で受けられるというアピールを何年もやっているのですが、特別な声かけをしているわけではなく、今では受診が当たり前のようになっています。

秋本様：

入社時にがん対策推進企業アクションの「がん検診のススメ」を配布したり、e-ラーニング「がん予防と両立支援」を受講していただいたりしていますね。冊子の配布は入社時というご記載通りかと思いますが、研修はどれぐらいの頻度で実施されているのでしょうか。

酒井様：

ご認識の通り、「がん検診のススメ」は入社時に渡して読んでもらっています。e-ラーニングは私と社長、部長など幹部は受けましたが、そこから社員にまでは広がっていない状況です。声はかけていますが、実際は受講できていない感じですね。e-ラーニングはそれほど時間がかかるものではないので、会議などの機会に一斉にみんなで行う方が、浸透しやすいと今は考えています。研修はそこまでできているわけではないです。アフラック生命保険株式会社様に「がん検診の勧奨について」や新潟県立がんセンター新潟病院の病院長をお招きし「がんと生活習慣」という講演をしていただきましたが、やはり研修や講習という、現場作業があるとなかなか社員が集まれないのが現状です。夜に実施すると残業になることもあり、これまではあまり活発にできていなかったかなと思います。そのため、社長ががんに関する新聞記事を朝礼とは別に業務用チャットも使い、情報が共有できる場を設けています。今後は、がんサバイバーさんに依頼をして研修にも力を入れていきたいと思っています。

温泉で健康を考える特別講座
がんと生活習慣

開催日 2022年
1月8日(土) 13:30~14:30

講師
 新潟県立がんセンター新潟病院
 院長 佐藤 信昭氏

生活習慣とがんのリスク
 国立がん研究センターの発表によると、たばこや大量飲酒の習慣がある人は、そうでない人と比べてがんの相対リスクが1.6倍高くなるそうです。また肥満では1.2倍、運動不足では1.15~1.19倍、野菜不足では1.06倍、それぞれの生活習慣によってがんの相対リスクが高くなると言われています。今回の講演では、新潟県立がんセンター新潟病院院長の佐藤信昭氏から「生活習慣によるがんリスク」と、「生活習慣の見直し方」について講演していただきます。

お申込先
 ☎0256-72-4126 主催：研冶工業株式会社



秋本様：

ありがとうございます。確かに、普段の業務の中で、業務以外の研修をやるとなると、ハードルが高い。だからこそ日常的に社長が情報発信していらっしゃるの素晴らしい取り組みかと思うので、早速弊社でも実践しようと思います。社員が検診を受診したかどうかをアプリで把握していると伺いましたが、ツールはいつ頃から導入されて、会社としては何を把握するようにしているのか伺ってもよろしいでしょうか。

酒井様：

まず、健康診断については業務用チャットで社員の希望日を調整し、予約担当が(社)新潟県労働衛生医学協会の担当者とやり取りをします。健康診断に行ったかどうかは、そこからの報告で把握することができます。

その後の、二次検診の把握にアプリを導入しています。やはり二次検診は放っておく人が多いです。これぐらいだったらまだ大丈夫という感じで。あまり深く考えないでしょうが、二次検診も大事だと言われている中で、声かけだけでは、再検査は行かないものですし、「就業時間内に行ってもいいですよ」と伝えてもなかなか行けない現状です。本人と上長しか見られないアプリを今年度から導入しました。

(健康診断で「C以上」の項目がついた方のみが対象)

秋本様：

アプリは自社で作っているのでしょうか。

酒井様：

kintoneアプリを自社で作成し、受診者の名前や、再検査項目、いつ再検査に行くか、いつ行ったか、どんな結果だったかを把握しています。

秋本様：

まずはアプリで取り組まれたのですね。把握してから再検査に関して動き方が変わってきたという感じでしょうか。弊社はすごくオープンな組織なので、最近でも1人、健康診断を受けた社員が「再検査でしたー！」って普通に言ってきてくれた人がいて、「ええ～、ちゃんと見てもらいなよ」ぐらいのコミュニケーションで、あとから再検査後の報告をもらえたのはよかったんですけど。これってかなりプライベートな情報ですよ。様々な取り組みの中で、女性同士でHPVワクチンの話をするようにとありましたがどのような会話をされているのでしょうか。

酒井様：

20代の社員が2名が在籍しており、ひとりがHPVワクチンを接種していないという会話をしているところに遭遇しました。

秋本様：

そうなんです。

酒井様：

HPVワクチンを接種しての副反応には個体差があるとは思いますが、かといって強制的に「接種して」とは言えません。けれどもそういう話題が出ることで少しでも話をして、ひとりで悩まなくて済めばいいかな、と思ってます。

秋本様：

ちなみに、対象年齢に入っていないと、自費接種となり、高額かと思うのですが、今受けられた方の費用は企業が負担してるのでしょうか。

酒井様：

自治体から無料券が配布された場合はそれを使用して接種していただきます。自費で受ける場合は会社負担にしています。ワクチンの種類も社長自らネットで調べたり、本当にいろいろな情報を集めながら、自分たちの会社に合った、その人たちに合ったやり方でやっていくしかないのかなというように痛感していますね。

秋本様：

社長がそこにちゃんと費用を出せるのは素晴らしいですね。本当にすごいと思います。すごく刺激をもらい、弊社も諸々見直さないといけないなと思いました。社長の発信力や社内での取り組みも大変勉強になりました。御社の取り組みは、他社でも始められるものが多いと思いますので、ぜひ参考にさせていただきたいですね。



■がん対策推進企業アクションについて

ホームページ：<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/>

新規パートナー申請：

<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/about/registration.html>

Working RIBBON：

<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/workingribbon/index.html>

パートナー企業専用eラーニング：

<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/elearning/index.html>